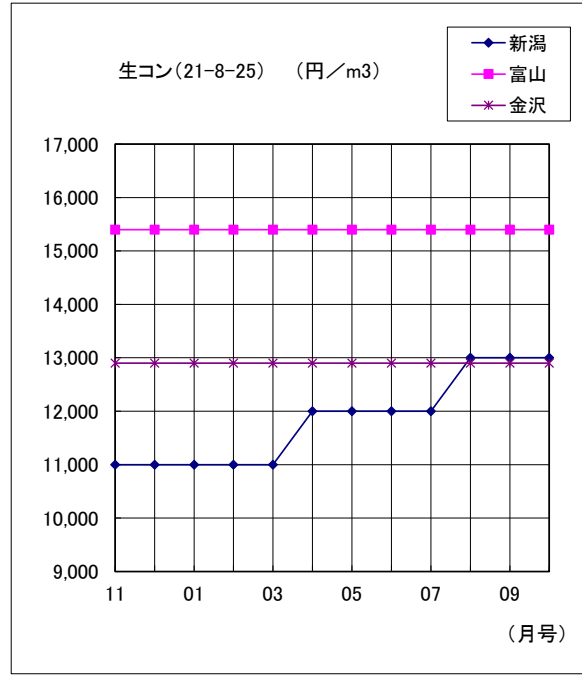
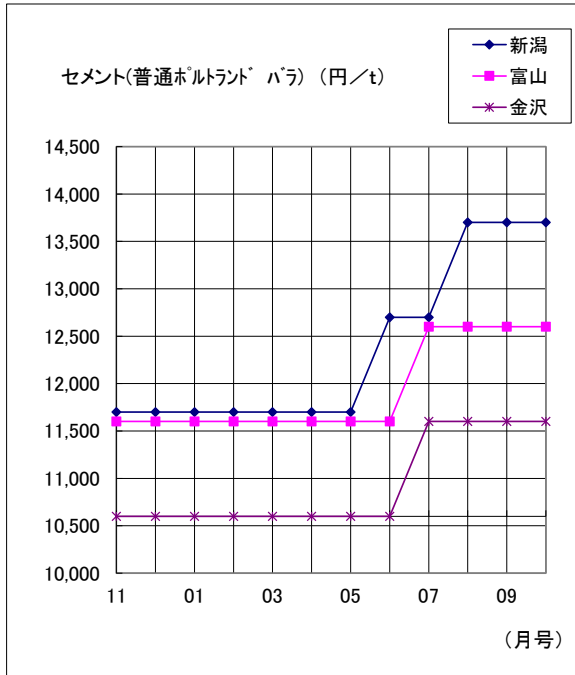


## 5. 主要建設資材の市況

記事提供：(一財)経済調査会 北陸支部

品 目	7～9 月期の状況と現況	先行き
セ メ ン ト	<p>3 県ともに強含み</p> <p>【新潟県】メーカー各社は、1月から実施していた値上げが7月に浸透したものの、世界的な石炭価格の急騰による製造コストの増加を理由に、7月から8月にかけて、10月1日出荷分よりt当たり3,000円の値上げを打ち出した。値上げ幅が大きい上に、表明から値上げまでの期間が短いことから、需要者側では金額、時期の交渉を試みている。先行き、強含みで推移する見通し。</p> <p>【富山県】メーカー各社は、6月にt当たり1000円の価格上伸後も、石炭価格や輸送費などの製造コスト上昇を販売価格に転嫁しきれていないとして、未達分の浸透を目指し需要者との交渉を継続している。さらに、メーカー各社は、10月からt当たり3,000円以上の値上げを打ち出しており、強気の姿勢で値上げを進める構え。先行き、強含みで推移する見通し。</p> <p>【石川県】メーカー各社は、原材料となる石炭価格の高騰などを理由として、10月からt当たり3,000円の値上げを打ち出している。こうしたメーカーの強硬な姿勢を受け、1月の値上げ打ち出し時に積み残した分の獲得が急務となった販売側では、需要者への売り腰を一段と強めている。需要者側では、今後の需要期に向けてt当たり1,000円程度の値上げを受け入れるケースが徐々に増えてきており、先行き、強含みで推移する見通し。</p>	<p>先行き</p> <p>(パワ物)</p> <p>(新潟)</p>  <p>(富山)</p>  <p>(金沢)</p> 
生 コ ン ク リ ー ト	<p>魚津・黒部地区、砺波地区でそれぞれ1500円/m3の上昇</p> <p>【新潟県】新潟地区において、新潟生コン協組は、2022年4月に打ち出したm3当たり1,000円の値上げが6月に浸透して以降、県内で浸透し始めた1強度1価格への価格体系変更を実施すべく、需要者へ理解を求めている。また、原材料となるセメントの更なる値上げを受け、10月1日契約分より、m3当たり2,000円の値上げを打ち出した。セメントの値上げ金額、時期は交渉中としながらも、1強度1価格については強気の交渉を続けており、先行き、強含みで推移する見通し。</p> <p>【富山県】魚津・黒部地区における新川生コン協組および砺波地区における砺波地区生コン協組は、4月より1,500円/m3の値上げを打ち出した。安定供給を優先する需要者のなかでは新価格を受け入れる動きがみられ、魚津・黒部地区では7月に、砺波地区では9月に、それぞれ1,500円/m3の上伸となった。</p> <p>富山地区における富山生コン協組は6月より、高岡・氷見地区における高岡地区生コン協組は7月より、1,500円/m3の値上げを表明。両協組は値上げ浸透に向けて需要者との交渉を進めている。さらに、セメントメーカーが唱える再値上げを受け、富山および高岡地区生コン協組は、10月より1,500円/m3、新川生コン協組は11月より1,700円/m3の追加値上げを表明。また、砺波地区生コン協組はこれまでの製造コスト上昇分も含めて10月より3,000円/m3の値上げを表明している。先行き、強含みで推移する見通し。</p> <p>【石川県】金沢地区では、大口需要となる物件が減少しており、出荷量は昨年同期比で17.6%減となっている(石川県生コン工組調べ)。金沢地区生コン協組では、こうした需要の減少に加えて、原材料となるセメント等の価格が高騰し続けていることから、8月1日出荷分よりm3当たり2,000円の値上げを打ち出した。しかし、組合と非組合員との競合が続く中、需要者の購買姿勢は厳しく、当面は横ばいで推移する見通し。</p>	<p>(21-8-25)</p> <p>(新潟)</p>  <p>(富山)</p>  <p>(金沢)</p> 
骨 材	<p>新潟地区：C-40で400円/m3上昇、富山地区：コンクリート用骨材350円/m3上昇</p> <p>【新潟県】新潟地区へ主体的に供給を行っている阿賀野川骨材協同組合は、コンクリート用骨材の値上げ活動が一段落して以降、道路用骨材の値上げに注力してきた。需要者側は、製造・運搬コストの上昇について一定の理解を示し、値上げを受容する動きが見られ、8月にC-40で400円/m3の上伸となった。製造コストの上昇が続くなか、販売側では来年度から値上げを実施する方針が早々に決まり、具体的な金額を設定すべく協議している。先行き、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【富山県】メーカー各社は、運搬費や採取地開発費用などのコスト増加分を販売価格に転嫁すべく、4月よりt当たり200円の値上げを打ち出し価格交渉を続けてきた。当初、需要者側は難色を示したが、原石不足を背景に販売側が優位に交渉を進め、9月には市況上伸となった。先行き、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【石川県】石川県山砕石業協同組合では、燃料費の高騰や工場維持修繕費の上昇などを理由として、全製品一律m3当たり400円の値上げを打ち出している。新産路盤材の需要に盛り上がりや欠く中、新価格の浸透には至っていないが、組合側は売り腰を強め、製品市況上伸を確実に進める構えを見せており、先行き、強含みで推移しよう。</p>	<p>(C-40)</p> <p>(新潟)</p>  <p>(富山)</p>  <p>(金沢)</p> 

【価格推移】



品目	7～9月期の状況と現況	先行き
棒鋼	<p>新潟県：5,000円/tの下落、富山県・石川県：3,000円/tの下落</p> <p>【新潟県】海外相場での鉄スクラップ価格が下落した影響で、国内鉄スクラップ価格(ヘビー H2)は、7～8月にかけてt当たり16,000円下落した。販売側は、需要者側から原材料の大幅安を理由に厳しい指し値を受けた結果、7～9月にかけてt当たり5,000円の下落となった。メーカー側は、副資材や電力料金等の高止まりによるコスト高が続いているとし、価格の維持に懸命。9月には、スクラップ市況が反発したものの、需要者側はスクラップの先安観の可能性を考慮し、当用買いの姿勢を強めている。先行き、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【富山県・石川県】これまで棒鋼価格上伸の背景となっていた鉄スクラップ市況が下落基調に転じたことで、需要者側の購買姿勢は厳しさを増し、富山、石川で7～9月にかけてt当たり3,000円の下落となった。スクラップ市況はここにきて改善の兆しを見せているものの、需要者側は、足元の原材料価格に対して製品価格を未だ割高と捉えており、厳しい指し値を継続する構えでいる。一方、製販側は、これまでの製造コストの高騰分を吸収すべく、現行販価の維持に尽力する意向。目先、横ばい推移の公算大。</p>	<p>(異形棒鋼)</p> <p>(新潟) </p> <p>(富山) </p> <p>(金沢) </p>
コンクリート二次製品	<p>新潟県・富山県：道路用製品の一部で上昇、石川県：一部製品に交渉進展の兆し</p> <p>【新潟県】販売側は、セメントや鉄筋及び燃料油類の高騰を背景に、4月より25%程度の値上げを実施。製造コストの急騰により経営環境の悪化が進むなか、販売側は製品の需給動向に合わせて積極的な値上げ交渉を継続している。需要者側は、値上げに抵抗感はあるものの、建設資材全般が上昇していることは承知しており、徐々に値上げを受け入れる姿勢に転じたことで、自由勾配側溝などの製品が価格上伸へと至った。販売側は、需要期に差し掛かる農業用水路製品などで、値上げを進めていく構えであり、先行きは強含みで推移しよう。</p> <p>【富山県】販売側各社は、原材料であるセメントや鉄筋の高騰など、製造コストの上昇により供給体制の維持と採算改善には値上げは避けられないとして、1月より15～20%の値上げを実施。当初、需要者は難色を示したが、経営悪化が進行していることを危惧した販売側が、価格転嫁に向けて売り腰を強めた結果、価格交渉が進展し、市況上伸へと至った。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】販売側は、4月よりセメントや鉄筋等の高騰などを背景に販売価格の見直しを打ち出している。昨年度下期に大幅な値上げを実施した道路用製品や大型製品については、更なる値上げに対して需要者側の抵抗が強く価格交渉は難航している。一方、昨年度の値上げを実施していないベンチフリュームや、ブロックなどの一部製品では、販売側がコスト転嫁は必須として売り腰姿勢を強めており、徐々に新価格の浸透が見られる。先行き、強含みで推移しよう。</p>	<p>(道路用製品)</p> <p>(新潟) </p> <p>(富山) </p> <p>(金沢) </p>
アスファルト合材	<p>3県ともコスト高の転嫁が進む</p> <p>【新潟県】主原料のストアス価格が高値圏で推移していることから、製造コストも高止まりとなり、各社の採算は悪化している。採算悪化を背景に、メーカー各社は4月以降にt当たり1,000円以上の値上げを実施。需要者側は、大幅値上げに対して抵抗を示すも、大型幹線道路向けなどの工事需要が本格化したことで需給が締まったことや、ストアス価格の急騰は理解の及ぶところであるとして、値上げを受け入れ、t当たり800円の上伸へと至った。販売側は、一段高を目指すも、足元のストアス価格が下落したため、現行価格の維持に注力するもよう。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】主原料となるストアスや燃料価格が高値圏で推移する中、販売側は企業努力だけではコスト上昇を吸収できないとして、値上げに向け売り腰を強めてきた。需要者側がコスト環境の変化に一定の理解を示したことで、交渉は進展し、t当たり800円の上伸となった。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】主原料のストアス価格が高値圏で推移していることから、販売側は製造コスト上昇を転嫁すべく、6月以降にt当たり1,000円以上の値上げを実施。製造コスト上昇による経営悪化が危機的状況であるとして販売姿勢を強めるなか、需要者側が原油価格の高騰は理解の及ぶところであると、値上げの一部を受容した結果、t当たり500円の上伸となった。販売側は、未だコスト上昇分の積み残し分があると、一段高を目指す姿勢を崩しておらず、先行きは強含みで推移しよう。</p>	<p>(粗粒-20)</p> <p>(新潟) </p> <p>(富山) </p> <p>(金沢) </p>

【価格推移】

